

# ★ まちづくり ★ ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

98号

2008年5月15日



ときわ台の景観を守る会

ときわ台まちづくり委員会

代表 鈴木博之 近藤洋子

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

## ○ 藤和マンション問題

5月19日2時から板橋区役所11階で建築審査会の口頭審査があり、安全条例違反・道路完成を待たずに下ろされた認可などの問題点が指摘される。審査会が適切な判断を下さなければ、各地で起きているような行政訴訟へ進む可能性もある。

## ○ 高層マンションの未来

— 「建築紛争から21世紀の都市づくりへ」集会から —

10日(土)、飯田橋で高層建築物で被害を受けている全国の市民集会があり、福岡や名古屋からの255名の参加者で会場は一杯だった。利権がからめば全く動かない議会や行政、更には司法までもおかしくなっている現状をなんとかしたいと、弁護士・学者・政治家も多数参加していた。初めての全国集会だったが継続発展を望みたい。

そこでショッキングなことを聞いた。五十嵐敬喜氏(法政大教授、マンション問題著書多数)が、高層マンションが廃墟となることは皆が知っている。権利者が共同遺産相続することも多いから、建て替えの際4/5の同意を取るなど不可能。またローンをやっ払っている購入者に、修繕費は出せても建て替えの高額費用は出せない。必ずスラム化し、廃墟となる。と断言したのである。

知り合いの建築士に聞いても、そんなことは誰でも解っている。業者も行政も言わないだけだ、と言う。一生掛けて我が家を購入しても、国民に何も残らないような建築行政は国家的な詐欺に等しいのではないか。もっと賢い国民にならないと・・・

江東区潮見2丁目で起きた殺人事件では、防犯カメラに運ばれたり連れ出された形跡が残っていなかったが、女性が住んでいるマンションが3割も空室で、マンション内の確認に1週間もかかっていた。業者は隠しているが、売れ残りは相当あるらしい。

### 図書館建替えはあるのか

板橋区には児童向きを除き十一の図書館がある。古い順に挙げてみよう。

( )内は建築年

中央図書館(昭和45) 赤塚(同51)

清水(51) 蓮根(53) 氷川(57) 高

島平(59) 東板橋(61) 小茂根(63)

西台(平成3) 志村(8) 成増(9)

常盤台公園内の中央図書館は、どこ

よりも古く、エレベーターがないので

身障者も使えず、ひび割れなどの老朽

化が目立っている。その中央図書館を

差し置いて、赤塚図書館が今年四月か

ら改築に入っている。

なかなか中央図書館改築が実現しな

いのは、公園内では公園全体の敷地の

12%が限度だそうで、今の規模は確保

できないらしい。地下階を増やすと工

費が三倍かかるそうだ。

一方、板橋区役所を五十億円かけて

建替える案が浮上している。そんな箱

物行政で税金の無駄遣いをするより先

に、区民の文化拠点である図書館のお

粗末さをなんとかするべきではなかる

うか。たしか、板橋区の掲げる標語は

「いきいき暮らす緑と文化のまち板

橋」だったので、どちらも対策がお

粗末なので、獲得目標として掲げたに

すぎないのだろうか。

## むかしげなつ(31)

— 東上線の電車から落ちたこと —

東上線の電車がまだ二両位の編成だった頃は、戦後の混雑の最中ではあっても、どこか世間全体がのんびりしていました。

私が女学生のころ、ときわ台駅（当時はまだ武蔵常盤でした）から池袋行きに乗ると、もう満員もよいところで、遅刻してはならないと必死の私は、入り口の鉄棒に掴まったまま、半分ぶらさがったような格好で発車となりました。そんな状態は日常茶飯事で、ドアは手動でしたし、何人もステップに乗ったままの状態でした。

中板橋駅まで来ると、向こう側のドアが開くので、反対側から乗り込んでくる乗客にグイグイ押され、しがみついた力が尽きてしまい、私は線路の上に落ちこちてしまったのです。落ちたというより半分諦めて飛び降りたと言った方がよいかもありません。みっともないけれど、なんとかホームに這い上がり、次の電車に乗りました。駅員が飛んでくることもなく、すべて自己責任の時代でした。

電車から線路に落ちたなんて、今では大事件だと思えますが、友達も経験があると言っていましたし、珍しくもなかったでしょう。

池袋でも、ちよつと電車が遅れると、乗客はすぐ線路に飛び降りて向かいのプラットフォームに這い上がったたり、混んでいれば窓から乗り込んでくるしで、お行儀は悪かったですね。

K・H

## カラスは嫌われ者第一位

例年どおり、カラスの巣が公園のスタジイに作られた。誰かが公園課に頼んだらしく、連休中に撤去作業が行われていた。急いで駆けつけて様子を見ると、巣には絶対、何羽か雛がいると思われたのに、撤去作業員はそらとぼけている。卵もなかったなどと言う。不審に思いながら、あとで人に話すと、動物愛護の人と勘違いしたのではないか、と言う。電話で公園課に確かめたら、全くその通りで、実は四羽の雛が孵っていたそうだ。

「バーダー」というバードウォッチングの雑誌が、三年前“読者が選ぶ好きな鳥”という特集をしたが、第一位がカワセミ、二位がヤマセミ、三位がオオタカだった。それに対して、好きになれない鳥の第一位がカラス、黒い姿・ゴミ漁り・凶暴性などが理由。二位がドバト。糞公害・汚い・緊張のなさが理由。三位がヒヨドリとムクドリという結果だった。後ろから石をぶつけられても虚ろな目をしているドバトや、「嫌いなんで失礼しちゃうわ！ヒヨドリヨ」と鳴いているヒヨドリなどのカットが面白かった。

そういえば今年も常盤台ではウグイスの声を聞かなかったのでは？

## 常盤台公園の花づくり

前橋などでチューリップの花が悪戯されましたが、常盤台公園ではそんなこともなく、携帯で写真を撮る人も多く、今年も色とりどり、形も多様なチューリップが楽しめたようです。来年はどういう趣向で植え付けようかと思案中。

クリスマスローズは、どうしてこんなに花付きが良く、大株に育つのですかと、不思議がられるのですが、半日陰で風通しの良い環境がびったりだったのでしょうか。勿論Tさんのこまめな手入れが一番の原因ですが。

今年のバラは、虫害が少ないようです。害虫が動き出すころ寒波が来たのではないのでしょうか。誰もが知っていますが、常盤台で有名なバラの生垣が殆どなくなっていました。残念という思いは否めませんが、今まで永年眼の保養をさせていただいたことに感謝です。それよりも新しい景観の創出を目指しましょう。

公園のバラも、図書館との間の殺風景なフェンスを隠そうと計画されました。今年は大分蕾が付いています。日当たりが悪いだけ、手間がかかっているのです。

定例会

六月十四日(土) 七時

一・二丁目町会事務所